

答え合わせ・解説

問1	答え 4 宮崎市	太平洋側に位置する宮崎市は、沖合を流れる暖流の黒潮（日本海流）の影響を受けるため、冬でも一月の平均気温が十度前後と温暖な気候になります。また、夏から秋にかけては、湿った南東の季節風や台風の影響を強く受けるため、七月の降水量が三百五十ミリメートルを超えるなど、全国的にも極めて降水量が多いのが特徴です。札幌市は一月の気温が氷点下となり、金沢市は冬の降水量が多く、大阪市は宮崎市ほどの降水量には達しません。
問2	答え 2 鹿児島県	鹿児島県は、広大なシラス台地が広がっており、水持ちの悪い土地柄からかつては稲作が困難でした。そのため、広大な土地を活かした畜産業が発展し、現在では農業産出額に占める畜産の割合が非常に高い「畜産王国」として知られています。北海道と混同されやすいですが、九州地方という条件や、シラス台地の活用という背景から判断します。
問3	答え 4 標高の高い台地の上は水が得にくい ため畑として利用され、標高の低い 谷底の平地は水が得やすいため 田として利用される。	日本の台地における土地利用は、水へのアクセスのしやすさに大きく左右されます。標高が高い台地の上面は、地下水位が低く、周辺の河川からも高低差があるため水を引きにくいことから、乾燥に強い作物を選ぶ畑作が行われます。これに対し、台地が削られた標高の低い場所は、地下水が湧き出したり川の水を導入しやすかったりするため、古くから水田として開発されてきました。
問4	答え 4 沖縄県	日本の国土面積に占める割合は約0.6%にすぎないにもかかわらず、在日米軍専用施設の多くがこの県に集中しています。これは第二次世界大戦後のアメリカによる統治や、地理的な重要性が背景にあります。現在も騒音問題や事故、基地負担の軽減が重要な政治課題となっています。
問5	答え 2 全国平均と比べて河川の長さが 極めて短く、雨水を安定して蓄える ことが難しい地形である。	沖縄県の河川の長さの平均を全国平均と比較すると、極端に短いことがわかります。これは島嶼部特有の急峻な地形によるもので、降った雨を地表に留めておく力が弱いことを意味します。そのため、沖縄県では水不足への対策として、地下ダムの建設や海水の淡水化といった独自の取り組みが行われてきました。よくある誤答として「降水量が少ない」というものがありますが、実際には沖縄は多雨地域であるため注意が必要です。
問6	答え 3 水はけの良さを利用して、サツ マイモや飼料作物などが栽培さ れる畑になっている。	「V」の字のような地図記号は「畑」を表します。シラス台地はその地質上の特性から水が得にくく、かつては「不毛の台地」とも呼ばれましたが、その水はけの良さを逆に取り、乾燥に強いサツマイモや、現代では広大な土地を活かした畜産のための飼料作物の栽培など、大規模な畑作農業が展開されています。
問7	答え 3 暖流である対馬海流の上空で、 大陸からの冷たく乾燥した季節 風が水蒸気を蓄えて湿った空気 となり、山脈にぶつかって雪を 降らせる。	対馬海流は黒潮（日本海流）から分かれて日本海を北上する「暖流」です。冬になると、ユーラシア大陸から冷たく乾燥した北西の季節風が吹きますが、この風が比較的暖かい対馬海流の上を通過する際、海面から蒸発した大量の水蒸気を吸収します。水分を含んで湿った空気となった季節風が、日本の脊梁山脈にぶつかって上昇することで雲が発達し、日本海側に世界的な豪雪をもたらす原因となります。
問8	答え 1 冬の温暖な気候を利用して暖房 費などの生産費を抑えることで、 遠方の消費地へ運ぶための高い 輸送費を補い収益を上げている。	沖縄県は東京などの大消費地から遠いため、出荷の際の輸送費が他県よりも高くなるという不利な点があります。しかし、冬でも温暖な気候を活かせば、ビニールハウスを温めるための燃料代（生産費）を大幅に節約できます。この「節約できた生産費」によって「高い輸送費」を相殺し、他地域との競争力を保っています。9月の出荷が少ないのは、他地域でも暖房なしで生産が可能になり、沖縄の優位性がなくなるためです。
問9	答え 3 地熱発電	大分県は火山活動が盛んであり、地下のマグマの熱を利用して高温の水蒸気を取り出し、タービンを回す発電方法が普及しています。これは再生可能エネルギーの一つであり、温泉地としても知られる別府などの地域特性を活かしたものです。水力発電はダムなどの水の落差を利用するもので、火山の熱を利用するものではありません。
問10	答え 1 暖流である黒潮の影響、南東か らの湿った季節風、および台風 の通り道にあたること	九州南部の太平洋側で降水量が多くなる要因は、大きく分けて3つあります。1つ目は、付近を流れる暖流の黒潮が水蒸気を供給すること。2つ目は、夏に太平洋高気圧から吹き込む湿った南東の季節風が、九州山地などにぶつかって上昇気流を発生させること。3つ目は、夏から秋にかけて台風が接近・上陸しやすく、短期間に記録的な豪雨をもたらすことです。これらが重なるため、福岡市などの北部よりも降水量が非常に多くなります。
問11	答え 1 地熱発電	九州地方は火山帯に位置しており、地下深くにはマグマだまりが存在します。この熱によって生じた高温の蒸気や熱水を取り出し、タービンを回して発電する仕組みを地熱発電と呼びます。大分県や鹿児島県で盛んに行われており、再生可能エネルギーの一つとして注目されています。
問12	答え 2 他地域からの入荷量が少なく市 場価格が高い時期に供給し、農 家の利益を高めるため	宮崎県のような温暖な地域では、その気候条件を活かして他の地域が生産できない冬から春にかけて作物を栽培します。市場全体の入荷量が少ない時期に出荷することで、需要と供給のバランスにより価格が高騰するため、通常よりも高い収益を得ることが可能になります。このように出荷時期を調整して経済的利点を得ることが、促成栽培の大きな目的です。
問13	答え 3 シラス台地	九州地方南部は過去の巨大な火山活動の影響を強く受けており、噴出した火山灰や軽石などが広範囲にわたって堆積しました。このようにして形成された地形はシラス台地と呼ばれ、この地域特有の景観や農業のあり方を規定する大きな要因となっています。